

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
経営協議会（平成24年度第4回）議事要旨

1. 日 時 平成25年1月24日（木）14:00～16:05
2. 場 所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
3. 出席者 磯貝議長
村井、新名、高比良、畚野、松本、片岡、北出の各学内委員
小出、志村、宮寫、CASSIM、矢嶋の各学外委員
欠席者 石井、井上、佐々木の各学外委員
出席監事 二宮監事
陪席者 堀江教育研究支援部長
奥田、竹下、桐山、森川、林田、成相、末廣の各課長
4. 配付資料
資料1-1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成24年度第2回）議事要旨（案）
資料1-2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成24年度第3回：持ち回り）議事要旨（案）
資料2-1 奈良先端科学技術大学院大学学則等の一部改正について（案）
資料2-2 奈良先端科学技術大学院大学学則（新旧対照表）（案1）
資料2-3 奈良先端科学技術大学院大学研究生規程（新旧対照表）（案2）
資料3 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学宿舎規程の一部改正について
資料4-1 平成24年度収入・支出予算（補正予算）
資料4-2 平成24年度収入・支出予算（案）（第2次補正予算）
資料5 業務達成基準適用事業の変更について（案）
資料6 学園前合同宿舎の概要
資料7 本学の主な動きについて（平成24年10月23日（火）～平成25年1月23日（水））
資料8-1 平成24年度補正予算（緊急経済対策）案の概要
資料8-2 給与改定臨時特例法に基づく国家公務員の給与削減と同等の給与削減相当額について
資料8-3 平成24年度補正予算内示事業一覧（平成25年度予算の特別経費増減内訳・平成24年度教育研究力強化基盤整備費および平成25年度施設整備実施事業）
資料9 平成24年度外部資金の受入れについて
参考資料 奈良先端大の概要と特色
参考資料 学長インタビュー（「文部科学教育通信」2013年1月14日号に掲載された磯貝学長のインタビュー記事）
参考資料 奈良先端科学技術大学院大学ミッションの再定義について
5. 議 事
（前回議事要旨の確認）
資料1-1及び資料1-2の平成24年度第2回及び平成24年度第3回（持ち回り）の議事要旨（案）について、原案どおり承認された。

(審議事項)

- (1) 奈良先端科学技術大学院大学学則等の一部改正について
村井委員から、資料2-1～3に基づき、奈良先端科学技術大学院大学学則等の一部改正について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。
- (2) 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学宿舎規程の一部改正について
高比良委員から、資料3に基づき、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学宿舎規程の一部改正について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。
- (3) 平成24年度本学補正予算の編成について
高比良委員から、資料4-1～2に基づき、平成24年度本学補正予算の編成について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。
- (4) 業務達成基準適用事業の変更について
高比良委員から、資料5に基づき、業務達成基準適用事業の変更について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。
- (5) 学園前職員宿舎の廃止について
高比良委員から、資料6に基づき、学園前職員宿舎の廃止について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(報告事項)

- (1) 本学の主な動きについて（平成24年10月23日～平成25年1月23日）
議長から、資料7に基づき、平成24年10月23日から平成25年1月23日に行われた本学の活動状況等について報告が行われた。
- (2) 平成24年度補正予算（第1号）の示達等について
高比良委員から、資料8-1～3に基づき、平成24年度補正予算（第1号）の示達等について報告が行われた。
- (3) 平成24年度外部資金の受入れについて
新名委員から、資料9に基づき、平成24年度外部資金の受入れについて報告が行われた。

(情報交換・意見交換)

「国立大学改革プラン」の策定に向けて、文部科学省から「工学分野等のミッションの再定義」を行うよう求められていることについて、本学がミッション検討会において、これまでに行ってきた検討内容を紹介の後、意見交換及び情報交換が行われた。

(主な意見は、次のとおり)

- ・筑波大学の「IMAGINE THE FUTURE」や立命館大学の「Creating a Future Beyond Borders」のように、奈良先端大が何を指すのか、国際社会に対して訴えることができるスローガンがあれば、学内構成員の間で誇りと一体感が持てるのではない

か。

- 奈良先端大は、学部を持たないという強みを生かし、情報科学や物質科学等の分野において他大学と連携し、そのグループのリーダー格として機能していくことを強く発信していただきたい。また、大学のミッションを考えていく中で積極的に予算を要求していくことも必要である。
- 日本には将来何が必要かを見通すことについては、制度的に問題があり、人材的に不足している。奈良先端大の研究者や学生には、素晴らしい知識と技術の中核としながら、先を見据えることができるリーダーになるにはどうすればいいのか、常に議論して欲しい。そのためには、やはり現場で何が求められているかを知り、それを吸い上げていくパイプを確保することが必要である。
- アジアにおける奈良先端大の位置づけを考え、アジアの学生が本学を目指してくるような研究や教育課程の整備等について検討していただきたい。
- ミッションの再定義の機会を利用し、教員の人事制度や大学間の連携等の制度面の改革についてどこまで行えるか、文部科学省と意見交換を行っていただきたい。
- 文部科学省との意見交換において、どのようなファクターに基づいてレーティングしているかがわからないが、奈良先端大を高く評価してもらえるような部分を積極的に入れていただきたい。
- 必ずしもエキスパートではない研究者が集まって議論することは、新しいものを生み出すためには重要であり、奈良先端大においては、このような雰囲気を大事にし、次世代の奈良先端大にしかできないようなものが生まれることを期待したい。
- 学際領域における国際規格を生み出すために、①奈良先端大が持つ優位性を上手に生かすこと、②将来、日本の産業技術のアンバサダー的役割を担うべくアジアの学生を受け入れ、日本の企業へ送り出すこと、③海外における高学歴社会に対応できるようなリーダー的人材を育成すること、が必要である。
- 国内の大学間のダブル・ディグリー等の試験的な取組等も視野に入れて、大学間の連携を検討していくことも必要である。

以 上